

外部資金の獲得でお悩みの方に朗報！

長崎大学経済学部発の大学ベンチャー
「出島リサーチ&コンサルツ」(DRC)
による

外部資金・科研費 申請書作成支援

- ・ 科学研究費になかなか採択されない
- ・ 外部機関の助成金の申請書をどのように書いたら良いかわからない

このようなお悩みをお持ちの方

科学研究費、文科省のGPやグローバル人材育成支援の助成金の獲得に豊富な経験を持ち、また自らも科学研究費の選考に関わったDRCスタッフがアドバイスをします。

まずはメールでお問合せください
hiromasa_okada@dejimarc.com



平成30年7月5日創立

代表取締役 社長
同 副社長

須齋正幸
西村宣彦
岡田裕正

弊社社員の助成金獲得実績等



(文部科学省)

2008～2010年度 大学院GP「アジア型ビジネス教育プログラムの国際・産学共同開発: 高度な専門職業人育成や専門教育機能の充実」実施責任者

2013～2017年度 グローバル人材育成事業(文部科学省)構想責任者

(科学研究費: 弊社社員が代表者となったもののみ)

1996年度 奨励研究(A)『時系列分析手法を用いたValue at Riskの検証と銀行のリスク管理手法』

1997年～1998年 奨励研究(A)『アメリカ会計原則・会計基準の損益計算構造からみた分類』(研究代表者) 1998～1999年度 奨励研究(A)『為替相場のマーケットマイクロストラクチャーモデルと超高頻度データ実証分析』

2000～2003年度 基盤研究(C)『高頻度データを用いた外国為替市場のミクロ構造に関する研究』

2001～2004年度 基盤研究(C)『外国為替ディーラーの雇用形態が為替レートのボラティリティに与える影響に関する研究』

2006～2009年度 基盤研究(B)『AHPによる外為市場のセンチメントの測定と為替ディーラーの投資行動バイアスの研究』

2006～2009年度 基盤研究(B)『中国元の変動相場制移行によるアジア域内貿易構造にあたえる影響に関する実証分析』

2010～2012年度 基盤研究(C)『社会的資源配分機能を考慮した日中韓の会計計算構造の研究』

2010～2013年度 基盤研究(C)『実験経済学と人工市場・模擬実験市場を用いたGARCH効果の発生メカニズムの解明』

2014～2017年度 基盤研究(B)『集合行動バイアスに基づく外国為替市場の変動要因分析: 実験・実証・人口市場を用いて』

2018～2021年度 基盤研究(B)『情動と資産価格の短期変動: セロトニントランスポーター遺伝子の分布特性に着目して』

(弊社社員が担当した審査委員)

2009.6月～12月 日本学術振興会、科学研究費委員会専門委員

2018.7月～2019.6月 日本学術振興会、特別研究員等審査会専門委員、

卓越研究員候補者選考委員会書面審査委員

国際事業委員会書面審査員・書面評価員

料金プラン(ご参考)長崎県外の場合は、旅費を別途いただきます

講演のみ(60分)	100,000円
講演+採択書類に基づく具体的な注意点・工夫の指導(90分)	200,000円
講演+ご本人執筆の持参原稿に基づく校正・相談(5人まで) 一人増えるごとに、50,000円追加	500,000円 ～